

みどころ
高島・黒島

Page with multiple descriptions（複数の文化財の説明があるページ）

高島遠見番所跡

1640 年、平戸藩は高島にこの番所を設置しました。徳川幕府の鎖国政策が導入された後に建てられた子の番所は、異国船等を発見し、迅速に通報する役割を担っていました。番所には、有事のため鉄砲 5 挺などが装備されていました。

竹邊家の一部だった長屋（下級武士の住宅）が今も残っています。

宮の本遺跡

宮の本遺跡は、約 6 千年前から縄文・弥生・古墳時代（13,000 BCE-538 CE）にまたがる遺跡を擁しています。

2 千年前の弥生時代の遺構は、大規模なもの（東西に 60m、南北に 260m）で、墓地からは 40 体以上の埋葬人骨が出土しました。地域の人が田畑を耕していると、度々人骨が出てきます。伝統的に、これらの骨は島に流されてきた流罪人の遺骨と考えられています。島の人々は、この骨を一ヶ所に集めて、「おこつま」として祀っています。

その他の史跡等

志賀神社：大正時代（1912-1926）に浜にうちあがった鯨の記念碑があります。

番岳：もとは、番所の見張り番が狼煙を上げた所です。第 2 次世界大戦の時の砲台が残っています。